



教育委員会より

「多久から発信！SDGs」

「伝えたい私のとっておき」

多久の魅力フォトコンテスト」

多久市教育委員会では「恕」、そして、郷土を愛する児童生徒の育成に向けての取り組みを推進しています。令和7年度は、地域の文化・自然資源の継承と振興を図ることや児童生徒自身が地域の宝物を見つめ直し、その素晴らしさを写真で表現すること、地域への愛着心や誇りを育むことを目的に『多久の魅力フォトコンテスト』を実施しました。



3校から203点が集まり、毎日歩く通路を写した『笑いあつて進む道』や、美しい夜空を写した『多久に輝く星』など、子どもたちの思いが込められたすてきな写真が出品されました。

写真家『確り八兵衛』こと東島トモキさんに審査していただき、各学年の最優秀賞と優秀賞を決定しました。最優秀賞と優秀賞の作品は、市役所4階に掲示しています。市民のみなさん、どうぞご覧ください。



多久市教育委員会

連載

多久市の指定文化財(14)

妙覚寺の刻造青面金剛石祠

南多久町大字下多久五六九八番地一

多久では江戸時代の前半頃に全盛があった民間信仰の一つに中国道教が由来の庚申信仰があります。私たち人間の体内には「三尸の虫」が棲んでおり、干支において6日に一度の「庚申」の夜に抜け出し天に昇り、天帝に人の行った悪行を告げると信じられました。

50基の庚申塔が確認されていますが、ほとんどが庚申の字を刻む文字塔です。この庚申信仰の本尊が青面金剛であり、病氣退散の神ともされます。南多久町桐野の妙覚寺境内にある刻造青面金剛石祠は、市内で唯一青面金剛の像が彫られ、4本の腕に武器等を持ち、身体に蛇を纏い鬼を踏み姿がみられます。県内でも像が彫られた例は少なく貴重で、石祠に寛文12年(1672)の銘があり、庚申塔の代表例として価値が高く昭和61年に指定されました。(教育振興課)



妙覚寺の刻造青面金剛石祠



青面金剛像部の拡大

市民文芸

◆ 風に押され 人に流され 教師たる

原点の地で 生きたるは 楽し

尾形 節子

◆ ときに暗く ときに光りし 青春の

思いあたたむ 古いゆく日々を

川浪 信子

◆ 野の花を 摘みきて 飾る わが部屋は

清しき 空気が 満たさる

梶原恵美子

◆ 試練とは 形を変えた 愛である

僕は 試練に 愛を 学んだ

野崎 隆幸

◆ 船山の 真上に 白き月の影

明日も 会わむ 有り明けの月

浦野 嘉恵

◆ 長閑さや 連なる山の 茜色

富樫 明美

◆ 春帽子 風に飛ばさる 無人駅

大谷 和

◆ 囀りや 術後の庭に 三年過ぎ

武富 律子

◆ 制服の 乙女等歌ふ 卒業歌

本村 則子

◆ つばめ来る 昔のままの子供部屋

大石ひろ女

◆ 不足すること 商品価値上げる

西山 残月

◆ 八十路肌鏡の中は 嘘つかぬ

古賀ひろこ

◆ ベンツから 乗り換えたのは コンバイン

大谷 和

◆ 仲よしで いつもケンカの ママと パパ

松下 修

◆ 咲く花に 認知予防の 秘訣聞く

井上 東子

川柳 《多久川柳会 互選》

俳句 《大石ひろ女選》

短歌 《麦の芽短歌会 互選》